

平成26年度全国麦作共励会における九州農政局管内からの受賞者の紹介

【農家の部】

全国米麦改良協会会長賞 ^{あ そう}麻生 ^{まき お}正雄 氏（福岡県福津市生家）

○ 農家の経営概況

福津市津屋崎地区で水稻、麦、大豆の土地利用作物を大型機械や新技術を活用した経営を行う専業農家であり、普及指導センターと連携して部分浅耕播種や麦生育期間におけるペレット堆肥散布技術等の先進技術を積極的に導入するなど、地域の中核農家として活躍しています。

○ 麦の作付概況

平成26年産の麦の作付面積は2,682a（小麦1,709a、ビール大麦973a）作付けしており、農地は通年借地2,172a、期間借地510aとなっている。部分浅耕播種等の新技術の導入と基本技術の励行による収量・品質の向上、大型機械一貫作業による省力化と生産コスト低減の工夫を実践しています。

○ 技術面の特色

全ほ場に明渠と弾丸暗渠を施工することで排水対策の徹底、ミネラルGや生石灰などの土壤改良材の施用により土壌pHの改善、有機物（ワラや堆肥）の投入による土作りを行っている。特に播種作業は、部分浅耕播種を実施するとともに、トラクターに除草剤用のタンクと散布ノズル、培土板を装着して、耕起・施肥・播種・畝立て・除草剤散布の5作業を同時に実施するなど省力化に取り組んでいるところに特徴があります。

○ 収量・品質の改善

麦作付ほ場の大半は大豆収穫後の播種となるため播種の遅延がしやすい条件であるが、降雨の影響を受けにくいように大豆の畝崩しを播種直前に実施。また、高水分土壌でも播種可能な部分浅耕播種とすることで、適期播種を可能にしている。

これらの取組の結果、26年産の10a当たりの収量は、小麦のチクゴイズミ513kg（県平均372kg）、ビール大麦のしゅんれい306kg（県平均217kg）と両麦とも県平均を大幅に上回っており、特に小麦については高水準の収量を実現している。

○ 労働時間・コストの削減

大豆300A技術である部分浅耕播種の導入による、耕起・施肥・播種・畝立て・除草剤散布の計5作業同時実施に加え、除草剤抵抗性スズメノテッポウやカズノコグサ防除に効果の高い、非選択性茎葉処理除草剤処理と部分浅耕播種を組み合わせた雑草防除体系により雑草発生量を大幅に低減できており、中期除草剤散布を省略している。この技術により時間的な余裕が生まれ、中耕・培土、踏圧、追肥等の作業に専念できるようになっている。

○ 今後の取組について

基盤整備後12年が経過して、本暗渠の効果が低下しているほ場では、排水性の向上を図るよう、大豆播種前にモミサブローの施工や堆肥の投入量を増やすため、普及指導センターと連携して大豆生育期間のペレット堆肥散布試験に取り組むこととしています。